

今週（10月24日から10月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が310兆円台後半と高水準で推移する中、先週よりもやや弱めの地合いで推移した。無担保コールO/N物は、24～26日にかけては▲0.05～▲0.03%のレンジでの出会い。27日はややレートが低下し、▲0.055～▲0.035%のレンジでの出会い。週末の取引となる28日もさほど地合いに変化はなく、▲0.05～▲0.035%を中心とした出会いで推移した。そうしたもとの、無担保コールO/N加重平均レートは週を通して概ね▲0.04%台前半で推移した。ターム物に関しては、1W～1M物で▲0.03%近辺の出会いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペに関しては、27日に2W・8,000億円がオファーされ、落札額2,660億円(期落ち額1,861億円)と札割れとなった。

●レポ市場

先週のGCIは、週初24日のT/Nが、短国買入オペ等の要因から▲0.09%中心の出会いで始まったが、その後はレートが若干上昇し、▲0.08%の出会いも見られた。S/Nでは、目立った要因がなく、▲0.09%中心の出会いとなり、その後もレートは横ばい圏内で推移した。27日のS/Nでは、月末要因があった一方、3M物発行要因もあったため、レート低下は限定的で、▲0.095%中心の出会いとなった。28日のS/Nでは、月末要因が剥落したものの、短国買入オペ等の要因から、売り手の資金調達意欲は弱く、▲0.09%中心の取引となっていた。

SCは、新規・コールオーバーともに幅広い銘柄で取引が見られた。個別銘柄では、2年債367～369回、5年債127～129回、10年債340～344回、20年債155～158回、30年債50～52回、40年債9回にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週を通して閑散であった。今月に入ってから、担保需要や海外勢からの買い需要が一服しており、先週末までは在庫がややダブつき気味であったものの、ある程度レート水準が調整した影響もあって、様子見姿勢が強い状況が続いた。出会いの水準としては、3M物が▲0.32～▲0.25%程度、1Y物が▲0.32～▲0.29%程度だった。

27日には3M物の入札が実施された。WI取引で▲0.258%の出会いが小額見られる中、結果は按分レート▲0.2456%、平均レート▲0.2568%、按分比率12.6216%と、概ね事前の予想通りの結果となった。

短国買入オペは28日に1兆円でオファーされた。按分利回較差▲0.009%、平均利回較差0%、按分比率72.6%となり、応札額も1兆5,504億円と少なめで、堅調な結果であった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間の償還総額8,000億円程度に対し、発行総額は1兆2,000億円程度であった。月末発行に係る週であったこともあり、商社、石油、小売、鉄鋼、不動産、リース等、幅広い業態で大型の発行案件が見られた。月末の発行残高は14兆円程度となる見込み。9月末の有利子負債削減による残高減から、徐々に増加傾向にはあるものの、冬の賞与需要等も勘案すると、例年に比べてやや盛り上がり欠けている。発行レートは概ね0%近辺となった。

26日には、CP等買入オペが3,500億円でオファーされ、按分・平均レート共に▲0.001%、按分比率86.4%という結果となった。発行残高の伸び悩みを背景に、応札額は6,171億円と前回比で減少し、平均レートは小幅に低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/24 (月)	17,234.42	△ 0.059	103.94	△ 0.040	△ 0.088	3,134,700
10/25 (火)	17,365.25	△ 0.069	104.46	△ 0.041	△ 0.088	3,175,000
10/26 (水)	17,391.84	△ 0.069	104.35	△ 0.042	△ 0.088	3,174,500
10/27 (木)	17,336.42	△ 0.060	104.56	△ 0.044	△ 0.089	3,160,700
10/28 (金)	17,446.41	△ 0.050	105.25	△ 0.043	△ 0.091	3,172,600

来週（10月31日から11月4日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/31 (月)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 9月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 9月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 9月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				9月の米個人所得・消費支出 10月のシカゴPM景況感指数 7-9月期のユーロ圏GDP1次速報値 10月のユーロ圏消費者物価指数速報値
11/1 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望				米FOMC(1日目) 9月の米建設支出 10月のISM 製造業景況指数
11/2 (水)	10月のマネタリーベース(日銀 8:50) 10月の消費動向調査(内閣府 14:00) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TB3M 44,000億円 11/7発行	流動性供給 2,000億円 11/7発行	交付税借入 10,500億円 11/11借入	米FOMC(2日目)
11/3 (木)	文化の日				英中銀MPC結果発表 9月の米製造業新規受注・出荷・在庫 10月のISM 非製造業景況指数
11/4 (金)	11月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				9月の米貿易収支 10月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
10/31 (月)	600	▲ 16,200	▲ 15,600	全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 1,900 ▲ 2,200	2,700 3,500 500	2,600	▲ 13,000	TB3M発行▲44000償還31900
11/1 (火)	1,000	▲ 8,000	▲ 7,000	短国買入 国債買入		10,000 5,100	15,100	8,100	
11/2 (水)	▲ 1,000	4,000	3,000				0	3,000	税・保険料揚げ 普通交付税 交付税借入▲10500期日10500
11/3 (木)	文化の日								
11/4 (金)	▲ 1,000	0	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
週間合計	▲ 400	▲ 20,200	▲ 20,600	—	▲ 4,100	21,800	17,700	▲ 2,900	

10/31は日銀予想、11/1以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、2日に法人税・年金保険料揚げや交付税の払いが予定されており、動向が注目される。

短国市場は、2日に3M物の入札が実施される。11月は10月に比べて短国買入オペのオフア額が減少すると予想される一方で、直近のオペ結果を見る限りでは在庫の減少も窺われ、需給動向が注目される。1日には11月末の国庫短期証券の買入れ残高見込みが発表される。

CP市場は償還額が少なく、残高の積み上がりが見込まれる。発行レートは、引き続き0%近辺の落ち着いた取引になると予想される。

主要なイベントとしては31～1日の日銀金融政策決定会合、1～2日のFOMC、3日のMPC結果発表、4日の10月の米国雇用統計などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入